

シリーズ

「私の木語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「ウッドスタートで地域を元気に」



東京おもちゃ美術館
副館長
馬場 清

■自己紹介

東京おもちゃ美術館副館長として、東京おもちゃ美術館が進める「木育」II「ウッドスタート」の担当をしています。日本には、材料である「木」、それを加工する「技」がありながら、



当館内にある、「東京赤ちゃん木育ひろば」は、多摩産材や全国のスギを活用した大人気の赤ちゃん向けスポット。

国産の木のおもちゃの自給率はとても低く、少しでもその普及を図るべく、活動を展開しています。

■活動内容

ウッドスタートは、全国の自治体と締結する木育連携協定のこと。締結にあたっては、誕生祝い品を地産地消の木製玩具にすることが条件です。私たち東京おもちゃ美術館は、そのおもちゃの総合プロデュースを行っています。すでに二〇二一年の新宿区を皮切りに、昨年の京都府亀岡市まで、全国で五十三の市区町村が宣言をしています。

ウッドスタートは、木のおもちゃをプレゼントすることだけに留まりません。その地域ならではの木育の取組と一緒に進めていくことになりました。

中部森林管理局管内に限っても、例えば塩尻市（長野県）では、毎年木育フェスティバルというイベントを行っています。信濃町（長野県）では、地域材を活用した子育て支援センターを作りました。

大野町（岐阜県）でも、道の駅を



長野県信濃町に作られた子育て支援センター「なかよし」。ウッドスタート宣言を機に、積極的に地域材を活用した空間を、東京おもちゃ美術館監修で設置。

新設するにあたり、大規模な子育て支援施設「ぱすてる」を作ることになり、私どもが全面的に監修をさせていただきました。

そしてその最たるものが、「おもちゃ美術館の建設」です。すでに全国に八館がオープン、二〇二二年度



新設された道の駅に併設された子育て支援施設「ぱすてる」。岐阜県産材を活用し、地域の特産である柿をモチーフにした遊具や、前方後円墳を表した木のタマゴプールなどを設置。

には、さらに三館がオープン予定。これらはすべて、地域材を全面的に活用し、木の良さを伝えるまさに木育の拠点としての機能を持っています。実は、木曾町でも、今秋のオープンが予定されています。日本を代表する林業地である木曾の地に、どんなおもちゃ美術館ができるのか。乞うご期待です。

■メッセージ

日本の子どもは日本の木のおもちゃで育つ。そのことで、日本の森も元気になる。そんな社会になるといいなあと、日々奮闘しています。

○連絡先

東京おもちゃ美術館
〒一六〇一〇〇〇四
東京都新宿区四谷四一二〇
電話：〇三ー五三六七一九六〇一
FAX：〇三ー五三六七一九六〇二
メール：kbaba@art-play.or.jp
ホームページ
<https://art-play.or.jp/tmn/>

